

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「One for all All for one」の本当の意味とは・・・～

令和7年度の終業式で話した「One for all All for one」という言葉。少し話したように・・・特に、経営・組織・集団でこの考え方を使うときには注意が必要だと言われています。

では・・・もう一度聞きます。「One for all All for one」の本当の意味とは？何でしょうか？

それとともに、ポイントとなる・・・「disagree & commit」ルールもおさえて解説します。

よく「One for all All for one」という言葉を聞くと思います。

この言葉の意味をどう捉えるかには、注意が必要です。

特に経営・組織・集団でこの言葉を使う際には、組織・集団に誤解を生んでしまい、意思決定が進まないなんて事態も起こってしまいます。「One for all All for one」の日本語訳の多くは、こう訳されます。

「みんなは1人のために、・・・1人はみんなのために・・・」

でも、この訳は、経営・組織・集団では残念ながら間違っているとされています。

どこが間違っているかといえば、後半の「All for One」の訳の部分です。

最初の「one for all」は「1人はみんなのために」。

これは多くの方が知っている意味で、問題ありません。

しかし、「all for one」は「みんなは1人のために」ではなく・・・

「みんなは1つの目的・目標のために」だと考えるべきだと言われています。

そして、その集団・組織の全員がその「目的・目標」を、**理解し・共有**できていないといけません。

・・・多数決だと何も決まらない。

もちろん周りの意見は聞くものの、最後にジャッジするのは、意思決定者である経営者・指導者・リーダーがバチっと決める。そうしないと集団・組織が進まなくなってしまいます。

「みんなは1つの目的・目標のために」で進んでいく組織・集団を実現するためには、経営者・指導者・リーダーが、組織・集団の全体像やメンバーが今どんな状況なのかを日頃から把握しておく必要があります。

代表の1人（経営者・指導者・リーダー）が最終的に決めないと、どうしてもふわっとしてしまふことがあります。

その決定を”なにがなんでもやりきる”という覚悟がある人がいないと「魂」が入らない状況になりがちです。

自分で決めなければ、他者の責任にできてしまいます。

これは、組織・集団の経営を成功に導く上で必須の「内部要因思考」を低下させてしまうため危険です。

だからこそ、組織・集団のことは経営者・指導者・リーダー自らが、全部最後はジャッジすることが重要です。

その際（過程で）にポイントになるのが・・・メンバー間での「disagree & commit」というルール。

【disagree ルール】 意見が違えば、あるならば議論（ミーティング）の場ですべて出るように。

【commit ルール】 議論（ミーティング）の上で決まったことは、誰の意見であろうが、自分の意思決定としてコミットして実行しよう。

この2つのルールを徹底すれば、あとから「やっぱりあれは・・・」と言わない環境ができます。

以上が、「One for all All for one」から見る組織・集団での活用方法です。

新入生を迎えて、令和8年度が・・・新クラスが・・・新たな1年・・・がスタートします。

1000人ほどの人が学校生活を共にする、公的な教育機関である県立伊丹高校の目標・目的とは？

そのために自分ができることは？我慢しなければならないことは？あなたの役割と責任とは？・・・

県立伊丹高校の一員として・・・学年の一員として・・・クラスの一員として・・・考えてみてください。